

国立京都国際会館施設の拡充・整備促進について

【関係省庁】外務省、財務省、国土交通省、観光庁

政府においては、観光立国の実現に向けて「MICE 推進アクションプラン」を策定するなど、国際会議の開催誘致を積極的に推進されているところであり、京都府内には「国立京都国際会館」や「京都迎賓館」など、日本を代表する国際会議都市にふさわしい施設が整備されてきたところでもあります。

しかし近年、特に近隣アジア諸国において、コンベンション産業を国家の主要産業と位置づけ、最新の設備を備えた施設を整備するなど、国を挙げて誘致を繰り広げています。

このような状況の中、日本が激化する国際コンベンション誘致競争を勝ち抜き、大規模な国際会議をより強力に誘致するためには、日本文化を世界に発信する拠点として最もふさわしい京都の競争力強化が必要であり、次のとおり提案します。

＜京都府からの提案＞

国立京都国際会館に5,000人規模の大型会議場や展示場として活用できる多目的ホールを整備すること。

昭和41年、日本最初の国際会議場として設置された同会館であるが、5,000人以上の会議施設を備えることが世界的な趨勢となっている中、設置後40年を過ぎた同会議場は、大会議場で1,840名と会議場自体の収容力が不足している。

京都開催であれば、多数の参加者が見込める会議であるにもかかわらず、同会館の施設が十分でないため、多くの大規模国際会議の開催が見送られるなど、京都としても、また国益上も大きな損失をもたらしている。

世界で最も魅力ある都市の一つとして評価されている京都に国内最初の国際会議場として設置され、第3回地球温暖化防止京都会議など数々の国際会議を通じて京都の知名度を高め、日本文化の発信を担ってきた国立京都国際会館の拡充・整備は、我が国の国際競争力の強化に欠かせないものである。

- ・ 世界最大級の旅行サイト「トリップアドバイザー」の「魅力ある観光地」（アジア）で第2位
- ・ 訪日外国人の京都府訪問率（21.4%）は、国内で第3位

京都府の現状・課題等

○ 国内外の主要な国際会議場の状況

国名	会議場名	大会議場収容数
日本	国立京都国際会館（現行）	1,840名
	同上（整備後）	5,000名

日本	国立横浜会議場（パシフィコ横浜）	5,000名
日本	東京国際フォーラム	5,000名
日本	大阪国際会議場	2,754名
アメリカ	ワシントン州立会議センター	7,500名
イギリス	アールズコートアンドオリンピア	22,000名
カナダ	モントリオール会議センター	4,000名
ドイツ	ベルリン国際会議センター	5,008名
フランス	パリ国際会議場	3,700名
シンガポール	シンガポール国際会議・展示場	12,000名
中国	ホンコン会議・展示センター	8,400名
韓国	コエックス会議・展示センター	7,000名
オーストラリア	シドニー展示・会議センター	3,500名

○ 京都が、積極的に誘致活動をしたものの国立京都国際会館のスペース不足により、開催が見送られた会議の代表事例

年度	国際会議名	要請スペース	開催地
平成14年度	国際感染症学会	3,000人程度の会議スペース 4,000㎡の展示場 10の分科会会場	シンガポール
平成14年度	第14回 世界心臓学会議	5,000人規模の会議スペース 1,000人収容のホール(3箇所) 200人収容の会場(10箇所)	オーストラリア
平成25年度	国際小児科学会	5,000人程度の会議スペース 12,000㎡の展示場	オーストラリア

【京都府の担当部局】

知事直轄組織 国際課 075-414-4313

商工労働観光部 観光課 075-414-4841